

望年山行 「ニツ箭山ハイク」

【山行日】：平成 21 年 12 月 13 日

【参加者】：柘植、橋本、辻本、小倉、村尾、野口、菅井、鶴田、小俣、
山内、舟山、井上(志)加藤、渡辺(理)、石川、高田、

当初はニツ箭山から屹兎屋山への縦走を考えていたが、ニツ箭山だけでも十分に楽しめそうなたため、陽の短い時期に無理をせず、ニツ箭山の周回コースで楽しむことにする。総勢 16 名のハイキングなんて会山行でしか味わえず、なんだかワクワクする。ニツ箭山駐車場には 8 時 30 分ごろ着くが、すでにたくさんのクルマが停まっており、我々も記念写真を撮って元気に出発する。



出発前の記念撮影

林道をしばらく歩くと尾根コースと沢コースの分岐だが、ここは尾根コースへルートを探る。しばしの急登で稜線に出ると阿武隈山地の展望が広がる。どれが何山だかさっぱり分からないが、まあ初めての山塊なのだから当然か。そのうち一般コースと岩場コースの分岐となるが先頭の橋本さんは迷いもせず岩場コースへ入る。まだ男岩にも来ていないのに、木にぶらさがるように下りる岩場があり、加藤さんがいつものように笑わせてくれる。その先が男岩になるが、ルートはまた二つに分かれ、基部を巻くコースと直接山頂へ向かうクローワールを登るコース。柘植・野口・小俣・高田の 4 名は直登コースへ向かう。最初の取付きと最後の出口が少しいやらしいが、全体としてはホールドスタンス豊富な内面登攀っぽい雰

囲気が味わえる楽しいコースだ。高田君も雄たけびというか、うなり声というか、とにかく気合を入れながら登ってきた。ただ岩頭付近は猛烈な風で、吹き飛ばされそうだった。

男岩岩頭には巻きルート途中からクサリと Fix ロープが延びており、巻きルート組も何人かここから登ったようだった。男岩岩頭から見ると女岩には垂直に(見える)クサリが延びており、あんなところ登れるのかと心配したが、鞍部に着いてみると、男岩よりは傾斜も緩く一安心。



男体山トップ



風が強くて、耐風姿勢？をとる加藤さん

結構他のメンバーを待たせてしまったが、全員合流してすぐにニツ箭山の山頂に着いた。ここは樹

林の中の展望もないところで、あまりに殺風景なので、休憩しようという声も出ず（約1名＝高田君は一心不乱に弁当を食べていたが）、集合写真だけ撮って、山頂を後にした。下山は月山経由の尾根コース、1時間ちょっとで登山口の駐車場に着いた。二ツ箭山はパッと見はさえないやぶ山だが、山中にあんな岩場があるなんて信じられない。そういえば昨日ロープワークを訓練したところもそう。阿武隈山地ってこんなところばかりなのだろうか？ちょっと遠いのが難だが、冬場には結構面白いところかも、と新たな収穫のあったハイキングでした。 柘植：記



鎖場を登る



男体山をバックに記念撮影



女体山山頂



二ツ箭山山頂での記念撮影



月山より岩峰を望む

